

近くの街で

C G An D G D

^G近くの街を歩^{Em}く ^Cしばらく来^Dていない道

^Gすれ違^{Em}う若^Cい人^Dたち ^Gモバイル見^{B7}ながら

^{Em}少し曇^Dって ^{Bm}降り出^{Em}しそうなの

^{An}パテ^Dストリアン^Gデッキに ^{B7}

^{An}昔住^Cんでた街^{Em}の面影^G ^D懐^{Bm}しさ^{Em}よみか^Dえる

^G八角^Dの民間^{Am}交番 ^D今はもう^Gなくな^Gって

^{An}その先^Gの個別^Gカウンターの

^{Am}ラーメン^Dを^Gすす^Gる

新宿と横浜からも 20分そこそこの街

便利さと懐かしさが 程よいバランス

私鉄沿いの道の途中

踏切の人だかり

そこに過ぎ去る電車と共に スッといなくなる

デパートの中間階 人もまばらで

そんな中でも たくさんの人

集まる地下売り場

花あかり

Am G F E7 Am G F E7

Am C G Am
心に残る絵の中でAm C G Am
遠くのはただの闇でG C
その向こうはまるで目のような月F Dm G G7
こちらを見るその下Em Am
道ってくる花あかりのF Em Am
その中の顔 道ってくるAm G F
「君はこれまでの中でG
何ができたのかDm
ちゃんとしてC F G Am
自分にウソはついてないか」

少しだけの光の中

あい色の空に負けないで

静寂を突き抜ける輝き

全てを恐れただけ見つめる

けむくじやらの妖怪が

そうこちらに道ってくる

そして立てひざつき

問いかけてくる

「素直になつて 自分にウソはついてないか」

「君は生きてるのではなく 生かされている

人生の歩み歩むのではなく 歩まされている」

Capo. D 1-2-4 G

(G=) Bb

巧言令色鮮かし仁

* 人はその昔から変わっていない

巧言令色鮮かし仁 自分もそうだ**

自分に目的があるように

近づく人にも同じように

この人ならと思っ込んで

全てを打ち明ける

優しい気持ちで

たさくもらったように

感じてしまう

人はその昔から変わっていない

巧言令色鮮かし仁 自分もそうだ

気がついたら誰もいなかった

出しゃくしたパフォーマンス

あんなにもくさしの協力

得られたはずなのに

手のひら返したように

背を向けられたように

感じてしまう

~

今日の教訓



Bn 5 Bn 5



Bn 5 Bn 5
目にかけて成長して育った人はいなくなる

Bn 5 T 0
これから先を託すつもりか

Bn 5 T 0
ある日突然、辞めることを聞いた

Bn 5 T 0
終身雇用など古い感覚

Bn 5 T 0
乗り換える会社 乗り物にすぎない

0 5 T 0
社内の垣根はすでになくなって

0 5 T 0
おもねることのない時代になっている

0 5 T 0
今時のできる人に限って

0 5 T 0
押し付けの価値感に従うことはない

理不尽を押し付けて残る人はいなくなる

やる意味と意義を伝えられないまま

任せるだけで軽蔑される

リスペクトできない人に偉そうに

言われる筋合いなどあるわけがない

多様な価値観認めるしかなく

上下序列のない時代になっている

今時のできる人に限って

上司の顔色だけ伺うことはない

Capo. 0

会いにくくなった

G D Em G D Em D

^G伝えているような気がして ^D ^C ^G ^G ^G ^G
いまだに信じていた

^G ^C ^{Am} ^G
何も会いにくくても 思っていることが

^G ^D ^C ^G
距離を保つ世の中で 連絡しなかった

^G ^C ^{Am} ^G
いつか会えるだろう せうとの気になんか

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^{Bm}
* 知らず知らずに 離れてしまう

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^G
交わす言葉も 気軽になくなった

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^{Bm}
いつの日にか 会いにくくなった

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^G
初めからの 怖くなくなって ******

ノーマル + オープンD

G D Em G D Em

^G ^D ^C ^G
一緒に飲んだあの店にも 行かなくなった

^G ^C ^{Am} ^G
今でもあるのだろうか なくなっているのだろうか

^G ^D ^C ^G
距離を保つ世の中で 会いにくいだけになって

^G ^C ^{Am}
電話やメールさえも 今はずいぶん

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^{Bm}
知らず知らずに 遠くなって

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^G
かける誘いも 気軽になくなった

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^{Bm}
いつの日にか あの頃のように

^G ^D ^{Em} ^C ^D ^G
冗談さえも 言えなくなってきた

(* ~ **)

静寂の景色

An G En D An G En D

静^Gかに流れる大^{An}きな川を横^C切りわたる高^G速終^G点間^{An}近の見渡す風景広^Cい平野^Dの片隅^Gせわい^{En}しい生活^Cの中賑^Dやかなビルを抜^Gけて山^{En}の向^{An}見えが、大地で少^Dしだけの休息^{En}を地^G平線^{En} 水^{An}平線^Dの パ^Gノラマ^{En} 見^{An}渡^Dす

途中下車した香取のまち

夕方まで遊んで

再び高速に乗って

おとなしい夜の楽しみ

今日は家族で居酒屋

川縁歩き 辿り着く

いつもと違う食事

いつもと違う寝床

あかりのない、広い道路 モバイルで照らしてゆく

地平線 水平線の パノラマ 見渡す

店の名は「カリニカ」

Bm G D A Bm G D A

Bm D A D
信州の高原で 孤高の人が切り盛り

Bm D A D
漂とした佇まい、その店の名は「カリニカ」

F#m D A D
地図を見てさがしても 検索でも見つからず

F#m D A D
もう一度この目で 確かめてみたい

Bm A Bm
* いっしょ看板もたにかい)

Bm A Bm
強..印象だけ残る **

幾度かは訪れるチャンスもあったのだけれど

ピロシキやキッシュがおいしくてみたかった

何もなし別荘地 広い空に遠くのみ

隣の喫茶店 関係あるのかな

* あれから何十年たつのか

今でもその人に会いたい **

信州の高原で 孤高の人が切り盛り

カリニカカリン カリンカカリン 開元まろやかメロディ

* ~ **

* ~ **